

国際シンポジウム2
演題番号 IN2-3 (D)

国際交流と災害—感染症対応—未来志向としての国際保健—

¹長崎大学熱帯医学研究所国際
保健学分野
○山本 太郎¹

2010年1月のハイチ地震, 2011年3月の東日本大震災, 2015年4月のネパール地震において, 支援のために現地入りした。その間, 災害支援の国際協力における風景は大きく変化した。ハイチでは, 無秩序に多くの組織が現地入りし, 調整もなく支援を行い, 医療行為を行ったため, 多くの下肢切断の悲劇を生んだ。

また, コレラの流行をもたらした。その反省に立ち, 海外医療チームの要件検討が始まった。また, ネパール地震後の支援では, 中国, インドのみならず, ASEAN諸国から日本を上回る規模の支援チームが現地入りした。これは, 今後の国際災害支援のあり方を変える契機になると考える。とりもなおさず, 首都直下や南海トラフ地震等の支援には多くのアジアの国からの支援の申し出あることを意味する。

そうしたことを踏まえ, 国際支援のあり方を考えてみたい。

国際シンポジウム2
演題番号 IN2-4 (D)

東京オリンピック・パラリンピックに向けた救急対策

¹東京都医師会
○猪口 正孝¹

東京都医師会では2020年の東京大会に向けて日本医師会と連携を取り徐々に準備を始めたところである。一般に国際大会中には, アスリート, VIP, マス・ギャザリングと異なった対象向けの救急医療体制が必要とされているが, それ以外にも, 既に多く訪れている外国人観光客向けの市街地における一般の医療やテロ対応医療なども必要である。実質的にオリンピック・パラリンピックは国と東京都2つの主催者が存在しており, まだどのような連携を持った組織体制となるのか見えて来ていない。医療の実行者は地元医療機関なのだが, その我々には未だ具体的な説明はなく, 現状では, 個別の起こりえる事態の研究, 研修, シミュレーションなどを行い, 必要な構成要素を育てている状況である。早急に行政サイドの統一した実行組織が構築され, 効率的準備ができることを希望する。